

一九九〇年二月二十五日
印刷
発行



第74巻 第1号

史学・地理学・考古学

論 説

- フーゴ・プロイスとプロイセン＝ドイツ
の行政改革……………野村耕一（1）
——政治思想史的考察——
- 近世ドイツ国制と帝国クライス制度……………渋谷聡（33）
——十六世紀末における帝国収税長官の
対トルコ防衛政策をめぐる——
- 朝鮮半島錦江下流域の三国時代墓制……………吉井秀夫（63）

研究ノート

- 漢長安城未央宮三号建築遺址について……………佐原康夫（102）
- 一八九八年のタブリーズにおけるパン騒動……………岡崎正孝（118）

書 評

- 谷川稔他著『規範としての文化—文化統合の近代史』……………上垣豊（135）

紹 介

- 小葉田淳監修・福井県(総務部県史編纂課)編『福井県史』
資料編16上 絵図・地図(足利健亮)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

することとなり、まず四〇年福田組がケン栽培にあつたが、完全に失敗した。そこで「満州国」および蒙疆政権でのキャリアをもつ及川氏がその腕を見込まれたのである。三省協定により新たに厚生会社が作られ、及川氏はその一員として海南島におけるアヘン生産の責任者となつた。農民の説得工作などに苦心を重ねた末、四農場約一五〇畝を確保し、四一年一〇月播種、蠶害などの困難を切り抜け、四二年二月初の収穫をえた。

及川氏は病氣のため同年四月帰国し、一〇年間にわたるアヘン政策への従事を終えるが、海南島で日本がアヘン生産をおこなつたことは、今日までまったく知られていない新事実であり、及川氏の証言のなかでも特に注目される部分である。

いま一人の丹羽郁也氏（一九二一年生、神戸市在住）は、一九四〇年東洋海運株式会社に入社、最上川丸の次席通信士となつた。同年九月本船は神戸を出港し、インドのゴアに向かったが、マラッカ海峡を出たところでイギリスの砲艦に停船を命じられ、積荷・行先などについて検閲された。ゴアで鉄鉱石を積んだのち、本船はイランのブ

シールで「薬品」の名目で五〇〇箱（一箱七二キログラム）のアヘンを積み込み、上海へ向かった。ところが本船はスマトラ島南岸沖へ迂回し、同島とジャワ島との間のスンダ海峡に入り、オランダの沿岸警備艇の制止を振り切つてボルネオ島西岸沖から南シナ海へ出た。

さらに最上川丸は丹山列島沖で三井物産のチャーター船であることを示す煙突と舷側のマークをペンキで塗り潰したうえ、上海に入港し、日本海軍陸戦隊員の手で「薬品」を荷下ろしした。

丹羽氏の証言は、日独伊三国同盟により日英間の緊張が強まるなかで、国際禁制品の密輸を秘匿することにとどのような苦心が払われたかを生々しく明らかにするものである。

日本のアヘン政策の全貌を明らかにするためには、ドキュメント・オーラル双方でのさらなる発掘の努力が要請されることを痛感する。

日本学術会議だより

— No. 19 —

平成二年一月 日本学術会議広報委員会

◇日本学術会議第一一〇回総会報告

日本学術会議第一一〇回総会（第一四期・第六回）は、平成二年一〇月一七—一九日の三日間開催された。今回総会で採択された事項は次のとおりである。

(1) 日本学術会議の運営の細則に関する内規の一部改正

本件は、①来年春の第一四期最後の総会が五月（通常は四月）開催になったことに伴い、「副会長世話担当研究連絡委員会の運営に関する総会決定」の適用期間を、一か月間延長するとともに、②第一四期限りの措置として、地球圏—生物圏国際協同研究計画（IGBP）のフォーアアップ組織として、地理学研究連絡委員会に「IGBP 専門委員会」を設置するために、関係各部署の研究連絡委員会委員定数について必要な処理を行ったものである。

(2) 創薬基礎科学研究の推進について（勸告）

本件は、薬科学系の三研究連絡委員会と薬理学研究連絡委員会が従来からの検討結果を勧告案として取りまとめ、第七部提案として、今回総会に付議したものである（この勧告の詳細は、別掲参照）。この勧告は、同日午後直ちに内閣総理大臣に提出され、関係省庁に送付された。

(3)第六常置委員会報告―外国人研究者・大学院留学生受入れに関する問題点と改善の方策について―

本件は、第六常置委員会が、今期の重要課題の一つとして審議を重ねてきた結果を「対外報告」として取りまとめたものを、外部に発表することについて承認したものである。

以上の諸報告及び提案審議のほかに、特に、近藤会長から、前回総会で討議された南アフリカ共和国科学者の我が国入国をめぐる諸問題については、その後、外務省と折衝した結果、ビザ発給手続きの合理化措置が講じられ、国際学術連合会議（ICSU）の理解が得られたとの報告があった。また、提案事項採決後行われた自由討議では、大学等高等教育関係予算拡充問題、遺伝子操作に関する法規制問題等について意

見交換が行われた。

◇創薬基礎科学研究の推進について(勧告)

(前略) 早急に創薬基礎科学研究の推進組織を設け、これを核とした強力かつ広範な研究態勢の確立を図るべきである。これに当たっては、医薬の創製における倫理の尊重を基本理念とし、生体機構及び病態の解析研究とそれに基づいた独創的・画期的医薬の創製を指向する分子設計並びに薬効・安全性評価の基礎理論の樹立、さら薬効・安全性の測定技術・ヒトの病態のシミュレーション技術等、各種の新技術の開発研究を特に重視すべきである。

この研究推進組織の設置には、関係省庁が関与すると共に、地方自治体、大学及び民間の参画を可能とし、また、関連科学各分野の学際的なネットワークを構築するなど多次の協力和交流による研究の推進を図るため、格段の效果的措置を講じ得る形態とすべきである。

日本学術会議は、創薬基礎科学研究の推進を図るため、上記の趣旨に基づいて必要な施策を速やかに講ずるよう勧告する。

編集後記

第七四巻第一号をお届けします。二十世紀最後の十年がスタートしましたが、中東紛争をはじめとして世界をめぐる情勢は、決して明るい二十一世紀を予測させるものではないようです。それぞれの分野を研究するものがいかに対処していくか今後ますます問われることになるでしょう。

本号はそうした世界とのかかわりを考えさせるかのように、論説三本、研究ノート二本がいずれも国外の重要なテーマ、発見に関するものとなり、史林の特質がよく表れた構成になりました。十分に御味読ください。(た)

一九九一年十二月五日印刷	定価二二〇〇円
一九九一年一月一日発行	送料五二〇円
史林 第七四巻第一号(通巻第三五五号)	
京都市左京区吉田本町	
京都大学文学部内	
発行人 史学研究会	
理事 長 笹 沙 雅 章	
京都市下京区七条 御所ノ内町五〇	
印刷所 中村印刷株式会社	

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXXIV No. 1 January 1991

CONTENTS

Articles :

- NOMURA Koichi: Hugo Preuß und die preußische
Verwaltungsreform (1)
—Eine ideengeschichtliche Betrachtung—
- SHIBUTANI Akira: Die frühneuzeitliche deutsche
Verfassung und das Reichskreiswesen (33)
—Über die Verteidigungspolitik des Reichspfennigmeisters
gegen die Türkei im ausgehenden 16. Jahrhundert—
- YOSHII Hideo: Tombs of the Three Kingdoms Period
in the Kum Basin, Korea (63)

Notes :

- SAHARA Yasuo: Problems Concerning Site 3 at the
Weiyang Palace in the Han Capital Chang'an (102)
- OKAZAKI Shoko: The Tabriz Bread Riot in 1898 (118)

Book Review :

- TANIGAWA Minoru(eds.): *Cultural Integrations in Modern
History: A Joint Research by the Society for the Study
of Modern Social History* (UEGAKI Yutaka) (135)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369